

# あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.151 2007.7.1



「松本城天守を救え」——遠く離れたオーストリアの地。  
フランス・ヨーゼフI世の治世25周年を記念したウイーン  
万国博覧会が開催されなければ、市川量造らの  
松本博覧会も開催されず、松本城天守も…。

## 松本とウイーンを結ぶ赤い糸 ウイーン展好評開催中

期間 平成19年6月2日(土)～9月2日(日)  
会場 松本市立博物館・国宝松本城天守



松本市制100周年



博覧会錦絵  
博覧会の宣伝用として作成、配布された。



ウイーン万国博覧会日本館入口  
右手に名古屋城の金の鯱、中央左に石燈籠、伊万里焼の大壺が見える。



建言(部分)

「取り短を捨つるは今日の急務と  
存じ奉り候あいだ、しばらくこれを似て衆庶觀覽の地  
として龍動(ロンド)、キリストルバレス、納(維)ガ也納、ミュゼユム  
等の如きに見なさんと…」

### もくじ

誌上博物館 ◇松本城天守を救え	2-3
～ウイーン万国博覧会と松本博覧会～	2-3
◇松本市歴史の里へようこそ！	4-5
◇松本の人と自然の関わりを遊びながら楽しく知ろう	
～山と自然博物館案内～	6-7
ガイドコーナーはんてんぼく	8

ルビーのアクセサリーと扇で装う礼装の皇后エリザベート  
1879年に皇帝フランツヨーゼフI世と迎えた銀婚式に際して描かれた。

# 松本城天守を救え～ウィーン国際博覧会と松本博覧会～

## はじめに

現在開催中の「ウィーン展」。おかげさまで多くの皆さんにご覧いただいています。しかし、開催前から「なぜ、松本でウィーンの展覧会なんですか」という声を耳にしました。

ここでは、そんな疑問にお答えし、ウィーン展開催のベースとなった歴史の一端を紹介してみます。

## 1 なぜ、ウィーン展か？

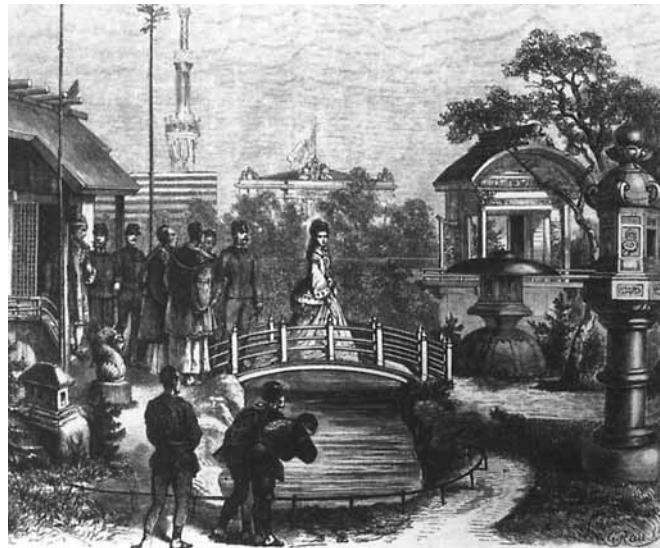
幕末期、將軍家と深いつながりのあった松本藩戸田家は明治新政府への帰属の決定が大幅に遅れる失態を演じました。それがトラウマになったのでしょうか、明治3年（1870）10月から名誉回復のために徹底した廃仏毀釈をおこないました。その結果、藩領全寺院の75%が廃され、仏像など貴重な文化財が取りこわさたり、売りはらわれました。さらに明治4年12月頃からは、天守などを除いた松本城の門・櫓などの取りこわしが始まりました。翌5年1月になると二の丸大書院をのぞく、天守以下、城門・櫓・堀などが競売され、このうち天守は笹部という人物により金235両1分、永150文で落札されました。

当時下横田町副戸長であった市川量造はこうした状況を知り、天守を産業振興のための拠点として利用できないかと考え、「海外博覧会ノ盛ナル言ヲ待タス、近頃都下博覧会行レテ人ニ開知ノ益少ナカラス一日ノ遊目十年ノ読書ニ勝レル」で始まる建言を筑摩県参事永山盛輝に提出しました。市川は、天守は落札されているが、天守を「博覧館」にして庶民が楽しむ場所として「竜動キリスタルパレス納（維か）也納ミュゼユム等」のように博覧会を開催するに支障はないと言っています。市川が有志とはあって博覧会を開催し、その収益で天守を買いもどすため、1851年（嘉永4）に万博が開催されたロンドンのクリスタルパレス（水晶宮）や来年（明治6年）万博が開催されるウィーンのミュージアムのように、天守を常設の博物館として庶民に開放したい、と考えていた

のでした。その後、明治6年から9年まで松本城天守を会場に5回にわたって博覧会が開催され、天守は買いもどされ、

保存されて現在にいたっています。

歴史にifはありませんが、ウィーン万博が開催されなければ市川らの松本城天守を会場とする博覧会は、実現はもとより構想も生まれなかつたのでしょう。何よりも松本の人々のシンボル・五重六階の松本城天守は残らなかつたのです。だとすれば、ハプスブルグ家歴代皇帝が嘗々と築き上げた芸術文化の聖地ウィーンで開催されたウィーン万博が松本城を救つたといえるわけです。



オーストリア皇帝夫妻の日本庭園訪問  
皇后エリザベートと皇帝フランツ・ヨーゼフ1世が小橋を渡るところ。

## 2 松本博覧会のようす

市川は建言が差しもどされると、翌6年9月に永山権令に「天守櫓押借懇願書」を提出しました。永山はすぐに天守などを所管する陸軍卿山県有朋に「本丸并天守押借伺」を提出して許可を得、ようやく博覧会の開催にこぎつけることができました。こうして、明治6年11月10日から松本博覧会社の運営で1回松本博覧会が開催されました。博覧会を運営する松本博覧会社の幹部は、佐々木了綱、 笹井新平、市川量造、神田久蔵、河野百寿の5人がつとめています。

第1回松本博覧会には、東京府博覧会事務局から借用した奥国博覧会図・蝦夷弓矢・和蘭古代之女衣裳・西洋犬などのほか、県内や隣県の山梨県から古器旧物を中心に出品がありました。地元松本からの出品は不明ですが、古器旧物類のほかに日用諸物品も多くあったようです。さらに、付博覧会として本丸広場には仮設の動植物園の設けられ、講釈、書画・工芸品の即売会、軽業芸などが催されています。付博覧会は、人びとの気分を発散させ、気力を養うための興



建言／明治5年11月27日

行であったようです。錦絵でPRがなされ、『信飛新聞』(11号・明治6年12月)には「筑摩県下松本旧牙城ニ於テ博覧会ヲ企テタリ、其挙ヲ嘉シテ東京府博覧会事務局ヨリ許多ノ物品ヲ下賜シ」とあり、会場へ向かう人びとは「日々四五千人ヲ下ラス」と、その賑わいを伝えています。

第1回松本博覧会は好評で、12月9日までであった会期を24日まで延長して幕を閉じました。この賑わいは、付博覧会の影響はもちろん、人びとの見物対象は単に珍しいものばかりでなく、松本城天守そのものも含まれていに違いありません。まさにほんの数年前、戸田氏時代は本当に限られた人しか立ち入ることができなかつた松本城天守と本丸は、天守を買ひもどすという目的のうえで集客力(収益)を期待できるベストの選択だったといえます。当時、松本のような小さな町で博覧会が開催されたのは珍しいことでしたが、大成功に終りました。ここにも市川の企業家精神を感じとれます。

### 3 市川量造－企業家精神と博物館的発想－

市川量造は弘化元年(1844)に松本下横田町の名主の長男に生まれ、学を松本藩の祐筆に学んでいます。文久元年(1862)に蚕種紙を携えて横浜に行き、文明開化の息吹にふれ、日本の発展は外国との交流が不可欠ということを目の当たりにしたといいます。明治5年(1872)に下横田町副戸長(翌年に戸長)になり、窪田畔夫とともに『信飛新聞』を発刊しました。この新聞は筑摩県の諸政策を県民に知らせる役割があり、1号に松本城天守の払いさげ問題、2号に市川自身の天守保存の建白文を掲載しています。建言に述べられているとおり、市川は当時副戸長という立場で新政府のウィーン万博博覧会への参加目的、国内の博物館創建や博覧会開催についても何かしらの情報を入手していたのでしょうか。松本博覧会は、当時東京府下で開催されていた美を鑑賞する一時的な博覧会ではなく、天守に古器旧物を蒐集し半永久的な「博覧館」として活用したいというもので、今日からみても注目すべき博物館的な発想に驚きます。

市川はそののち病院や学校設立に尽くし、明治13年には自由民権運動の結社である奨匡社を結成し、国会開設運動



市川 量造(松本城本丸顕彰碑)

にも活躍した。さらに、勧業社(のちの開産社)、松本農事協会の植物試験場開設、甲信鉄道の敷設計画など、松本地方の産業振興のために企業家精神も十二分に發揮しています。

明治26年、市川は横浜に移住しました。悠々自適の暮らしのなかでも、折々に窪田畔夫、金井潭などが市川のもとを訪ね、そんなときは深夜まで楽しそうに語り合っていたといいます。

### 4 平成の市川量造たれ！

松本藩の廃仏毀釈とそれに続く城郭の取りこわしのうちに市川量造の胸に去來したものは、旧物を破壊しても新しい世の中は来ないということでした。建言のなかで旧物の「長ヲ取り短ヲ捨ツルハ今日ノ急務」と述べ、旧物の長所を取りあげて生かし、短所は改めることが大切と強調しています。地方に在りながらも、殖産興業のためのウィーン万博参加の国策にいち早く注目し、悲惨な状況にある文化財を目の当たりにした市川が気づいた進歩の理念は松本博覧会を開催に導き、天守-松本城-を救いました。

近代化のなかで松本城を守り、誇りとした市川ら先人の営みに思いをはせながら、松本城を中心に今後の100年に向けた魅力あるまちづくりを考えるとき、わたしたち一人ひとりが平成の市川量造たらんとすれば、きっと松本らしいまちづくりの発想と実践が可能になるのではないでしょうか。

### おわりに

以上のように、今回はウィーン展のベースになった部分について紹介してみました。博物館と松本城に足を運び、13世紀から20世紀のはじめまでヨーロッパに君臨し、ウィーン万博の開催に大きくかかわったハプスブルグ家の至宝を鑑賞してください。7月14日(土)の神戸市外国語大学の山之内克子先生の講演「ハプスブルグ家と日本文化-ウィーン万博を中心にして-」を聴講してください。まさに、市川の言うとおり、「一日ノ遊目十年ノ読書ニ勝レル」です。さらに、ウィーン展カタログも一家に1冊お求めいただければ、鬼に金棒です。

(館長補佐・学芸員／窪田 雅之)

### 引用文献

- 市川 憲次 1964 「父の晩年」
- (竹村浪の人『信州魂市川量造物語』風越書房)
- 有賀 義人 1976 『信州の啓蒙家市川量造とその周辺』同刊行会
- 窪田 雅之 2007 「松本城保存の恩人・市川量造」
- (「ウィーン展」松本市市制施行100周年記念事業「ウィーン展」実行委員会)

# 松本市歴史の里へようこそ!!

## リニューアルオープンした歴史の里

2004年9月号の『あなたと博物館』で「展示ケースの中の資料を眺めるのではなく、建物という資料の中に歩いて入れる博物館」と紹介させていただいた歴史の里。1年間余の工事休館を経て、4月28日リニューアルオープンいたしました。今回は、そのみどころをご案内します。

### リアルな建物内部の再現

松本市歴史の里は、[県宝 旧長野地方裁判所松本支部庁舎] [旧松本少年刑務所独居舍房] [旧昭和興業製糸場] [工女宿宝来屋] [木下尚江生家]の5棟を保存・公開するたてもの野外博物館です。それぞれの建物では、建物が実際に使われていたころのようすを、家具や生活用具などで情景再現しています。その一部を紹介しましょう。

旧松本少年刑務所独居房内部  
昭和28年創建当初の独居房内部をできるだけ再現しています。



県宝 旧長野地方裁判所松本支部庁舎 支部訟廷  
明治憲法下の法廷の様子を再現しています。  
明治憲法下の法服(複製品)を着ての記念撮影が人気です。



工女宿宝来屋  
5月連休中には、工女が野麦峠を越えたころのお話を聞き、当時の食事を楽しむイベントが行われました。



木下尚江生家  
格式ある武士の住まいです。  
毎月1回「松本綿の会」が、糸を紡ぐワークショップを開催しています。



旧昭和興業製糸場  
毎月第2・第4土曜日の午後2時から1時間程度、糸ひきの実演を行っています。団体向けに開催する実演も、一般の方が見学できます(日程は歴史の里へお問い合わせください)。

## 語り伝えられる思い出

映像や音声で、建物や資料にまつわることがらを、わかりやすく伝えています。



ある糸ひき工女の思い出

山本茂実展示コーナーで、山本茂実が『あゝ野麦峠』執筆の際おこなった聞き取り（テープ）の一部を聞くことができます。



歴史の里ガイダンス映像（約7分間）  
裁判所旧書記室で、歴史の里全体をご案内する映像をご覧いただけます。



映画『あゝ野麦峠』抜粋（約13分間）  
展示・休憩棟 山本茂実コーナーにて。



明治憲法下法廷の裁判進行音声（約4分間）  
裁判所支部訟廷で、明治憲法下裁判のようすを、リアルな再現音声で聞くことができます。



製糸場最後の日—旧昭和興業製糸場（約9分間）  
平成7年の工場閉鎖当時の映像をご覧いただくことができます。

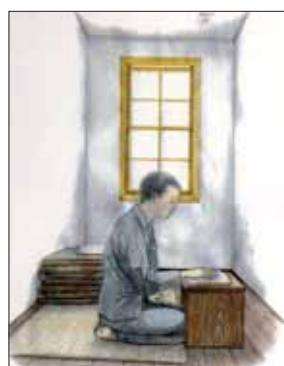
## ミュージアムショップ

シルクや桑を素材にしたお菓子やタオルなどの小物類、旧昭和興業製糸場で糸ひき実演により生産した絹糸、懐かしい昔おもちゃ、松本名産のお菓子などを販売しています。

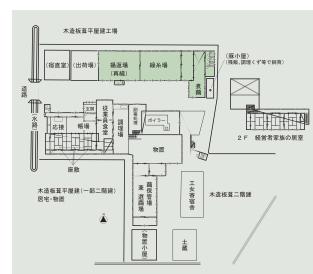


## 『歴史の里建物ガイドブック』

歴史の里各建物を見開きでご紹介するほか、建築ミニ知識、農家や武士の住まいの特徴、市内の代表的な近代建築など盛りだくさんです。ミュージアムショップでお求めください。（300円、A5版、36ページ）



【旧松本少年刑務所独居房】内部のイメージイラスト  
各建物を物語る典型的な情景を、再現イラストをご覧いただけます。



【旧昭和興業製糸場】  
移築前の施設配置図  
(旧ヤマニ原製糸場時代—昭和10年代の製糸場)  
移築前の建物配置も、できるだけ掲載しています。

## おわりに

リニューアルオープン後ご来館いただいた皆さんも、意外に見逃しているポイントが多いのではないでしょうか？  
このページを片手に、緑あふれる歴史の里へどうぞお出かけください。

（松本市歴史の里 学芸員／臼井 邦彦）

# 松本の人と自然の関わりを遊びながら楽しく知ろう ～山と自然博物館案内～

## 1 展示室の概要

山と自然博物館は、アルプス公園内の小丘陵の上にあります。1階2階の博物館の展示、砂防学習館、5階に展望台があります。

1階展示室はアルプ公園に多く訪れる親子連れを対象にしています。公園内の言い伝え、「データラボッヂ」をイメージした大きな像と松本年中行事双六を中心に、遊びながら松本の四季の身近な自然と人との関わりを紹介する展示です。また、ホールをはさんで向かい側には松本砂防事務所の砂防学習館が併設されています。こちらでは、上高地など砂防事務所管轄の監視カメラからのライブ映像が常時流されています。また、砂防の歴史や土石流などの水害についての映像ライブラリーを見る事ができます。

2階展示室は企画コーナーを通じてアルプ公園に関する自然情報を発信することをめざした市民みんなが関わり、学び、育てる展示室というコンセプトでつくられています。また、明治から昭和までの登山道具の数々を展示しています。



砂防学習館

### 導入展示

入って右側は松本の風景写真のスライドショー、左側は松本に伝わる天候予兆の紹介展示、床にはアルプス公園周辺の空中写真が貼られています。

### データラボッヂの言い伝え

昔々大昔、日本の国土が創造された時のこと、データラボッヂという巨人がいて、所々を巡り歩いて地形の格好をなおしていました。

ある時、高い山の不格好なところの土をたくさん削り取り、遠くのじめじめして役にたたない場所へ運んで埋めてようと

思って、背負子を使って土を背負い、西山から東山へ一またぎで越していきました。データラボッヂは、ひきつづき西に東に北に南に行き来しました。その時に残した足跡の一つがアルプス公園家族広場にある池といわれています。



データラボッヂと松本年中行事双六

### 松本年中行事双六

松本の四季の自然の移り変わりに年中行事を織り交ぜた人と自然とのつながりを遊びながら知るすごろくです。遊びながら松本の自然と人々のくらしを学べるコーナーです。

### 松本の自然を紹介する4つのコーナー

展示室の四隅では松本の自然を水辺、高山、山、里の4つの小部屋でそれぞれの場所でみられる生き物達を紹介しています。ここに展示されている剥製の多くは昭和のはじめにつくられた松本市立博物館の常設展示「山岳室」に展示されていたものです。

#### 春の水辺

ウグイやカジカ、サギやカモなど松本のため池や用水、わき水や清流などで見られる生き物を紹介するとともに、人がどのような形で水を利用して来たかを解説しています。

#### 夏の山岳

標高3000m以上の山々をもつ松本、ライチョウやオコジョ、高山植物など北アルプスや美ヶ原でみられる生き物たちや、年表で松本と山との関わりの歴史をとおして岳都松本の姿を紹介しています。

#### 秋の山

松本で標高1500mまでの山々は昔から人との関わりが深い場所です。アルプス公園の周辺を中心にそこでみられる植物、昆虫、鳥など多彩な生き物たちを紹介しています。

#### 冬の里

私たちが暮らしているところにも自然があります。道ばたの草花や鳥など日常の中で見られる生き物たちや、松本の気候風土を生かしてつくられる郷土料理や田んぼの1年を紹介しています。



なるほど小部屋(山)

## 2 二階常設展示

### 道具からみる日本登山史

2階展示室の半分は明治から昭和にかけて近現代の登山で使われた登山道具を時代順に紹介しています。年配の方々にはなつかしい道具が並んでいます。このコーナーでは槇有恒、長谷川恒男、田部井淳子などの有名登山家がヨーロッパアルプスやエベレストへ登山したときの装備を展示しています。



登山装備の展示

### 標本展示「長野県で生息するチョウ」

県内でみることができるチョウを、市街地と河川敷、里山、草原、高山で分類し、紹介しています。また、アルプス公園で採集した、自然に関する実物や写真を展示しています。

展望台からの眺望



## 3 五階展望台

5階は360°の展望室になっています。晴れた日の眺めは絶景です。

### 西側

常念岳をはじめとする北アルプスと安曇野一帯、乗鞍岳や鉢盛山を背景に、梓川が形成した扇状地を見ることができます。

### 北側

白馬三山と城山丘陵の山々と断層崖を見る事ができます。

### 東側

美ヶ原や戸谷峯などの山々や浅間温泉を見わたすことができます。

### 南側

鉢伏山や高ボッチと中山丘陵、手前に広がる松本市街。遠くに南アルプスの仙丈ヶ岳や中央アルプスの木曾駒ヶ岳なども見えています。

## 4 利用案内

博物館の展示室は小中学生無料、大人300円です。展望台、砂防学習館は無料となっていますので、アルプス公園へお越しの際はぜひお立ち寄りいただきますようお願いいたします。

(松本市山と自然博物館 学芸員／小原 稔)



昆虫標本展示

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

## ぐるっとまる博バス

期 日 7月22日(日)  
 コース 市博→馬場家→歴史の里→山と自然博  
 参加費 200円  
 申 込 7月10日(火)9:00から松本市立博物館へ電話で

## 七夕の「笹飾りを作ろう」

期 日 7月7日(土)・21日(土)  
 参加無料・申込み不要

## 七夕人形を作ろう

期 日 8月2日(木)~7日(月) ※5日を除く  
 教材費 1,000円  
 申込み不要

## ウィーン展記念講演会

期 日 7月14日(土) 午後1時30分~3時  
 演題 「ハプスブルグ家と日本文化  
 　　— ウィーン万博を中心にして —」  
 講師 山之内克子氏(神戸市外国语大学教授)  
 聴講料 無料(電話にて申込受付中)

旧開智学校から ☎0263-32-5725

## 明治の模擬授業

期 日 8月5日(日)  
 時間 午前9時30分~11時30分  
 内容 明治時代の授業を当時の教科書、掛図等を使って実際に体験します。  
 定員 20名  
 対象 大人  
 教材費 500円

## 博物館バス見学会「建造物見学会」

期 日 ①9月5日(水) ②9月12日(水)  
 [原則として2回とも参加できる方]  
 内容 ①歩いて松本市内の建造物を見学  
 　②バスで市外の建造物を見学  
 定員 20名  
 参加費 1,000円  
 申込 8月6日(月)午前8時30分から

考古博物館から ☎0263-86-4710

あがたの森考古学セミナー「長野県の考古学100年」  
 期日 ①7月14日(土) ②7月21日(土) 2回  
 内容 ①松本を中心とした歴史遺跡発掘  
 　②松本の遺跡発掘  
 場所 あがたの森文化会館／2-8教室  
 定員 60名  
 受講料 無料  
 申込 不要

松本民芸館から ☎0263-33-1569

展覧会「民芸の原点 李朝展」  
 期間 7月3日(火)~9月9日(日)  
 観覧料 通常観覧料(大人個人300円、中学生以下無料)  
 講演会「白磁の人 浅川巧の功績について」  
 期日 8月19日(日)午後1時~3時まで  
 講師 高崎 宗司(津田塾大学教授)  
 聴講料 300円(民芸館入館料として)  
 申込 不要

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

## 「松本のこどもの短歌・2007」短歌募集

募集期間 7月1日~  
 対象 松本市内小中学校の児童・生徒  
 締め切り 10月31日  
 応募方法 規定の応募用紙に記入して、学校単位で窪田空穂記念館へ提出  
 入賞発表等 平成20年2月上旬

## 短歌講座

期日 ①7月22日(日) 講師 篠 弘氏  
 　②9月9日(日) 講師 来嶋 靖生氏  
 時間 午後1時40分~2時間程度  
 場所 窪田空穂生家  
 受講料 各1,500円  
 申込 窪田空穂記念館へ電話で

## 空穂伝統文化こども教室

■将棋の部  
 期日 ①7月28日(土) ②8月11日(土)  
 時間 午前10時10分~12時  
 場所 窪田空穂生家  
 対象 中学生以下(無料)  
 申込 窪田空穂記念館へ電話で

## ■囲碁の部

期日 7月31日(火)~8月2日(木)  
 時間 窪田空穂生家  
 場所 午前10時~12時  
 対象 中学生以下(無料)  
 申込 窪田空穂記念館へ電話で

## 夏季講座「空穂作品を歌う」

期日 8月4日(土)  
 時間 午前10時~12時  
 場所 窪田空穂生家  
 受講料 100円  
 申込 窪田空穂記念館へ電話で

## 子ども短歌教室

期日 9月1日(土)  
 時間 午前10時10分~12時  
 場所 窪田空穂生家  
 対象 小中学生とその家族  
 受講料 無料  
 申込 窪田空穂記念館へ電話で

## 短歌の教え方講座

期日 9月1日(土)  
 時間 午後1時~3時  
 場所 窪田空穂生家  
 対象 教職員及び大人  
 受講料 無料  
 申込 窪田空穂記念館へ電話で

馬場家住宅から ☎0263-85-5070

## 展覧会「七夕人形展」

期間 7月7日(土)~8月19日(日)\*8月7日にはホウツウサービス!  
 観覧料 通常観覧料(大人個人300円、中学生以下無料)

## 七夕コンサート「馬頭琴とエンジェルスハープの調べ」

期日 7月8日(日)午後3時~  
 入場料 通常観覧料(大人個人300円、中学生以下無料)  
 主催 弦楽器工房オフィス・ドルチェ

## 七夕人形作り講座

期日 7月28日(土)午後1時30分~  
 受講料 1,000円及び観覧料  
 定員 15名 申込 7月18日から馬場家住宅へ電話で

歴史の里から ☎0263-47-4515

## 裂き織り体験

期日 ①7月12日(木) ②7月28日(土)  
 　③8月9日(木) ④8月18日(土)  
 それぞれ午前10時~正午、午後1時~3時  
 受講料 500円~1,000円  
 定員 毎回午前15名、午後15名  
 申込 開催日の3日前までに、歴史の里へ電話で

## 草木染め体験

期日 ①7月8日(日)マリーゴールド染め  
 　②8月5日(日)藍生葉染め  
 　③8月18日(土)マリーゴールド染め・藍生葉染め  
 それぞれ午前10時~11時  
 受講料 1,000円(染めたい布を別途用意)  
 定員 每回10名  
 申込 開催日の3日前までに、歴史の里へ電話で

## 綿つむぎ体験

期日 ①7月14日(土) ②8月11日(土)  
 それぞれ午前10時~正午、午後1時~3時  
 受講料 大人1,000円、子ども300円  
 定員 每回午前6名、午後6名  
 申込 事務局(谷口) 090-1866-3310

## 糸ひき実演(歴史の里 旧昭和興業製糸場にて)

期日 ①7月14日(土) ②7月28日(土)  
 　③8月11日(土) ④8月25日(土)  
 申込 不要  
 (観覧料が必要/個人大人400円、中学生以下無料)

時計博物館から ☎0263-36-0969

## 開館5周年記念特別展

「澤田平コレクション—鉄砲から見た和時計」  
 期間 8月4日(土)~9月2日(日)  
 観覧料 常設展観覧料が必要

## 記念講演会

期日 8月19日(日)  
 時間 午前1時30分~3時  
 会場 本町ホール(時計博物館4階)  
 申込 電話で時計博物館まで

四賀化石館から ☎0263-64-3900

## 展覧会「貝の特別展」

期間 8月1日(水)~8月31日(金)  
 観覧料 通常観覧料(個人大人300円、小・中学生150円)

梓川アカデミア館から ☎0263-78-5000

いずれも午前10時から午後5時まで 入場無料

第20回 松本ハッセルブラッドフォトクラブ写真展  
 期間 7月4日(水)~7月9日(月)

## 徒然流創作押絵作品展

期間 7月11日(水)~7月16日(月)

第20回(平成18年度)『信州子ども絵画100年館の絵』展  
 期間 7月25日(水)~8月5日(日)

第20回 安曇野ハッセルブラッドフォトクラブ写真展  
 期間 8月22日(水)~8月27日(月)

## 第46回 日本水彩松本支部展

期間 9月2日(日)~9月9日(日)

## あとがき

市民学芸員の皆さん、市内各博物館のパートナーとして活動を始めました。展示を見  
 るだけではなく、講座で教わるだけではなく、新しい博物館の楽しみ方が始まったようです。  
 これからの市民学芸員の活躍に注目!!ですね。

## あなたと博物館 No.151

発行年月日 / 平成19年7月1日 編集・発行 / 松本市立博物館  
 〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133  
 URL: http://www.city.matsumoto.nagano.jp e-mail : mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp